

3つの目で見た郷土香川《第12回》

～平賀源内～



平賀源内記念館

さて今回は、平賀源内（ひらがげんない／1728－1779）の足跡をたどり、さぬき市志度にある平賀源内記念館と平賀源内旧邸に行ってきました。

四国霊場第86番札所志度寺へ続く旧志度街道の静かなたたずまいの中に2009（平成21）年3月に平賀源内旧邸に併設されていた遺品館を移転したのが、平賀源内記念館です。ここには志度・高松、長崎、摂津・河内・紀伊、伊豆・秩父・秋田、江戸の時代別という風に分けられており、源内が多方面に渡り活躍された足跡が偲べれます。

そしてまず源内で結びつくのがエレキテルですが、現存するものが実は2台あり、1台は歴史資料でお馴染みの唐草模様のもの（1915（大正4）年に平賀家から東京の逓信総合博物館に寄贈）、もう1台は平賀家に現存するもの（さぬき市指定文化財）です。また体験コーナーにもエレキテル体験というのがあり、別の体験用エレキテルをクルクルと少し回してから、スイッチ（？）をチョンとすると一瞬強烈な花火が出てきました。館の方の話では数千ボルトの電圧だそうです。

平賀源内旧邸（国登録有形文化財・2010（平成22）年指定）は、平賀源内記念館から旧志度街道を西に約550mほどにあり源内の生家で、1862年に1度建て替えられています。別館の旧遺品館には源内工房となっており、源内焼の展示や制作スペースとして活用されているようです。そして源内200年祭記念行事1979（昭54）年の一環として、ゆかりの薬草園があり約100種類の薬草があります。これ故なのかここでは薬草茶のサービスがあり、薬草茶の販売もされていました。また薬草園には2005（平成17）年復元された源内焼窯もあります。



源内ゆかりの薬草園



薬草園から見た平賀源内旧邸

ここからは源内の足跡について見ていきたいと思えます。源内は1728年高松藩米蔵番白石茂左衛門の三男として志度で生まれ、幼名は四方吉（よちきち）元服後に国倫（くにとも）、通称が源内と呼ばれました。

1739年にはからくり掛軸「お神酒（みき）天神」を作成し、「天狗小僧」と呼ばれ早くからその才能を見せています。そして1740年には本草（ほんそう）学（薬の元になる草、薬用になる動植物・鉱物を研究する学問）を三好喜左衛門、医学を高松藩医の久保桑閑、儒学を高松藩儒の菊池黄山からそれぞれ学んでおり、源内の活躍の原動力になったのかと思われます。1749年父の死去により家督を継ぎここで平賀の姓名乗りました。



平賀源内(平賀源内旧邸入口に展示)

採取などを命ぜられています。1761年江戸に帰りさらに研鑽をしたい源内は禄仕辞退の願を行い認められましたが、藩の出入りは引き続き自由されど他藩の士官は禁止の条件はつきましたが、これで晴れて天下の素浪人となりました。

1761年には漢方では下剤・利尿剤とされている輸入品であった芒硝(ほうしょう)を伊豆で発見・精製し翌年幕府に献上、1762年には1757年から毎年開催の物産会を「東都薬品会」と改称し、誌上初全国から物産を会負担で募集し返却したり、唐物やオランダ物なども展示するなど大規模な開催に成功し、1763年これらの成果を取りまとめ「物類品類(ぶつるいひんしつ)」全6巻を刊行しております。1764年から10年間は秩父の鉾山開発にかかわり、1764年に早速石綿を発掘し、これを活用して火洗布(かがんふ)という火に強い布を作りこれも幕府に献上しております。1761年から1769年にかけて源内は、「紅色本草」「紅色禽獣魚介虫譜」などの動植物関係の洋書や世界図を時には家財を売り払ってまで入手しています。1765年に高価なオランダ寒暖計を見てその構造を見抜き、1768年にはタルモメートル(寒暖計)の制作にも成功しています。

1773年には、久保田(秋田)藩第8代藩主佐竹義敦(よしあつ)に招かれ、院内银山、阿仁銅山の経営指導を行い、阿仁では銅から銀を絞り方の改善策を提案し、久保田藩財政改善に一役はたしています。またここでは西洋画法を藩主義敦、藩士の小野田直武に伝授し、「秋田蘭画」というグループが誕生しております。源内が杉田玄白と交流があり、玄白がオランダの医学書「タートルアナトミア」の和訳した「解体新書」の挿絵の絵師として1774年源内の紹介により、小野田直武が表紙絵を含むすべてを担当しております。

1770年から翌年にかけて再度長崎遊学、この時オランダ人から壊れたエレキテルを入手し、これを江戸に持ち帰り分解したり、持ち前のネットワークでオランダ人から情報収集するなどして、1776年エレキテル復元に成功し、人体から火を取り病を治す道具と宣伝し世人に珍しがられました。

源内は以上の他、俳諧連歌や風刺戯作小説などの文筆活動、源内焼を志度で伝授など多種多様な方面で活躍しましたが、1779年11月21日未明に人を殺傷し投獄され、同年12月18日に小伝馬町牢獄で病死されました。死後杉田玄白等が墓標を江戸浅草の総泉寺に建立、また平賀家の菩提寺であるさぬき市志度にある志度寺内の自性院にも源内の墓があり偲ぶ事がかなうことでしょう。

-
- 《参考資料》
- ・新編志度町史 上巻 (志度町(現さぬき市)発行 昭和61年)
 - ・平賀源内を歩く (奥村正二著 (株)岩波書店発行 平成15年)
 - ・奇才 平賀源内 上巻・下巻 (藤井國夫著 李山堂発行 平成21年)
 - ・平賀源内記念館展示資料に見る平賀源内縦横無尽 (財)平賀源内先生顕彰会発行 平成22年)